

## 令和 6 年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：岐阜女子大学

### 1. 事業の実績

#### (1) 事業目的

- 社会、特に子どもを取り巻く環境が多様化し、幼稚園や認定こども園で幼児教育に携わる教諭にも、こうした状況に対応する資質能力の向上が求められる。とりわけ、幼児教育の現場で中心的な役割を担う中堅層（ミドルリーダー）の果たすべき役割は大きい。
  - しかし、中堅層の多くは2種免許状保有者である。岐阜県の現状(令和5年度)として、幼稚園教諭2種免許状授与件数が幼稚園教諭の内約65%を占め、1種免許状33%、専修免許状1%となっている。このような割合での免許授与件数の傾向は、ここ3年間変化がほとんどない状況である。このような現状の中、岐阜県教育委員会では、幼児教育を巡る様々な課題に対応する力を養うため、専修免許状や1種免許状の取得を促進することを課題としている。加えて、施設のニーズや教職員のキャリアステージに応じて研修内容を充実させることが大切であるとも考えを示している。
  - さらには、令和3～5年度に岐阜県・沖縄県教育委員会より幼稚園教諭の在職年数の短さ、園の中での教諭をリードする中心的存在となりうる在職年数の教諭の資質向上について課題があり、中堅層（ミドルリーダー）への研修や資質能力向上の機会が重要であることが指摘された。
  - その指摘の中には、幼児教育の担当者としての日々の業務の中心者でもあるミドルリーダーが、日々の教育活動と研修を両立させるための研修の機会の確保の困難さもあった。
  - これらのことより、幼稚園教諭の専門性を向上させるためには教育委員会の研修等で学ぶ教育の最新事情とともに、理論と実践を往還する内容とそれらを学ぶ機会の確保の方法の確立が必要と言える。
  - そのために、本免許法認定講習では、実務年数12年以上の幼稚園教諭の新たなキャリアとして令和4年度より実施している「幼児教育コーディネータ」を位置づけ、その人材を養成することを通して、2種免許状保有者の専門性の向上を図り、上進を推進する。
  - その際の人材育成方法として幼稚園教諭免許状の上進のための免許法認定講習・免許法認定公開講座・免許法認定通信教育を開設・実施するとともに、多様な学習方法を取り入れた講習等を実施し、新たな教師の学びの姿を実現するための効果的な講習等を次のように開発・実施する。
    - ① ハイブリット型授業のデザインと“教えないで学べる”学修環境の整備と充実
    - ② キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化の改善
    - ③ 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発（改善と充実）
- (2) 事業概要 ※実施日程を必ず明記すること。
- ・ 人材育成方法として幼稚園教諭免許状の上進のための免許法認定公開講座を開設・実施した。

- ・ 多様な学習方法を取り入れた講習等を実施し、新たな教師の学びの姿を実現するための効果的な講習等を次のように開発・実施した。
    - ハイブリッド型授業のデザインと“教えないで学べる”学修環境の整備
    - キャリアステージに対応した幼稚園教諭に求められる資質能力の構造化
    - 幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発（改善と充実）
- ① 対象
- ・ 実務経験年数12年以上を経過するこれからの幼稚園教育を担う中堅層教員を対象に二種から一種への上進を1年で可能にする講習の開設
- ② 認定講習の実施形態
- ・ 講座の形態として、対面授業を基本とし、e-Learningを組み合わせた講習（ハイブリッド型講習）とした。
- ③ 認定講習の実施状況
- ・ 令和6年度の認定講習の開講設定科目及び日程は、表1のとおりである。
  - ・ 受講料は、7科目30,000円とした。（1単位3,000円）

表1. 令和6年度の認定講習開講設定科目及び日程

No.	教育職員免許法 施行規則に定める 科目区分等	科目名	単 位 数	学習期間	スタートアップ オンライン講座
A・B	領域及び保育内容の指導法 に関する科目	遊びと文化Ⅰ・Ⅱ	2	8月12日～11 月12日	8月10日 又は 8月11日
C		保育内容(表現)	2		
D	教育の基礎的理解に関する 科目	教師論	2		
E	道徳、総合的な学習の時間等 の指導法及び生徒指導、教育 相談等に関する科目	教育の方法・技術	2		
F・G		幼児理解・教育相談Ⅰ	2		

- ④ 評価
- ・ 講習の内容が幼児教育従事者の資質向上に貢献しているかを評価検討する有識者会議を設置した（評価検討委員会）。
  - ・ 評価検討委員会は令和6年12月～令和7年2月に実施した。
- ⑤ 講演会の実施

- ・ 令和7年2月22日に、本事業における講演会「Reborn infant education 第4回未来の教育講演会」と題して、「教育DXで拓く未来の学び」をテーマに講演会を実施した。
- ・ 本テーマを柱に、文部科学省学校DX戦略アドバイザー・岐阜女子大学教授並びに幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会委員・國學院大學教授 鈴木みゆき氏による講演を行った。
- ・ 基調講演では、「教育DXで拓く未来の学び」と題して、未来の学びとして知識創造型の学びが重要になってくるとの言及があった。
- ・ そのことができるための人材育成として「幼児教育コーディネータ」、「小中連携教育コーディネータ」、「学校DX戦略コーディネータ」の育成講座を岐阜女子大学にて令和7年度に実施することの説明があった。
- ・ 特別講演の中では、「あと伸びする力を支えるコーディネータの役割」と題して、「幼児教育アドバイザーの役割を「1. 役割を自覚する力」、「2. 寄り添いかかわる力」、「3. つながる・つなぐ力」、「4. 守る力」、「5. 学び続ける力」の5点が重要である」と言及があった。
- ・ これらの講演を受け、受講生とともに「接続期」の学びを考えるためのワークショップを対面・オンライン同時に実施した。
- ・ 参加者は、103名であった。

(3) 成果（事業の実績の説明）

① 本事業を活用して開設した講習・受講者数・単位取得者数等について

ア. 令和6年度の講座開講状況（受講者数等）は、表2のとおりである。

表2. 令和6年度の認定講習の開講状況

No.	教育職員免許法 施行規則に定める 科目区分等	科目名	単 位 数	申 込 人 数 (人)	受 講 者 数 (人)	勤 務 先 等 (人)	年 齢 構 成 (人)
A・B	領域及び保育内容の 指導法に関する科目	遊びと文化Ⅰ・Ⅱ	2	15	15	公2・私13 行0・幼8 こ6、企業1	20代 2 30代 5 40代 3 50代 2 60代 3
C		保育内容(表現)	2	15	15	公2・私13 行0・幼8 こ6、企業1	20代 2 30代 5 40代 3 50代 2 60代 3
D	教育の基礎的理解に 関する科目	教師論	2	15	15	公2・私13 行0・幼8 こ6、企業1	20代 2 30代 5 40代 3 50代 2 60代 3
E	道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等 に関する科目	教育の方法・技術	2	15	15	公2・私13 行0・幼8 こ6、企業1	20代 2 30代 5 40代 3 50代 2 60代 3

F・G	幼児理解・教育相談 I	2	15	15	公2・私13 行0・幼8 こ6、企業1	20代 2 30代 5 40代 3 50代 2 60代 3
-----	-------------	---	----	----	---------------------------	---

※勤務先等 公=公立、私=私立 行=行政、幼=幼稚園、こ=認定こども園、企業=企業を表し、横の数值は、人数を表す

受講者の上限として定員を180名と設定していたが、15名の申込人数になっている。8.3%の受講率であった。

イ. 対面・集合型研修とオンデマンド型又は同時双方向型のオンライン研修との組合せ等オンライン・オンデマンド型を活用した効果的な講習等の開発・実施にかかわって

- ・ 講習の実施形態として、対面での講義で本人確認を行いながら、多くの部分はオンラインでの講義とし、ハイブリッド型講座とした。
- ・ e-Learning やテキストを活用した学びとすることで、受講生が、「いつでも、どこでも」学ぶことができた。
- ・ 「オンラインという形で開講していただけたので、忙しい中でも受講してみたいと思うきっかけになりました。」と、受講生からの声があった。
- ・ 「価格」については、昨年度の実施の際に「本講座の価格の安さに驚いたとともに、受講を決心した。」との声をいただくことができていた。このことから、受講決定にもつながる価格設定（3,000円/1単位）を維持し実施した。
- ・ 多様な学習方法として、対面での講座を実施しながら、オンラインでの講座の実施を行った。
- ・ オンラインでの講座の実施は、非同期型、つまりは、オンデマンド型の e-Learning の形態をとった。
- ・ e-Learning では、動画教材が本学の e-Learning システムを活用して視聴できると、テキスト（印刷教材）も配付し、両者を活用しながら学ぶことができるようにした。
- ・ e-Learning やテキストを活用した学びとすることで、受講生が、「いつでも、どこでも」学ぶことができた。

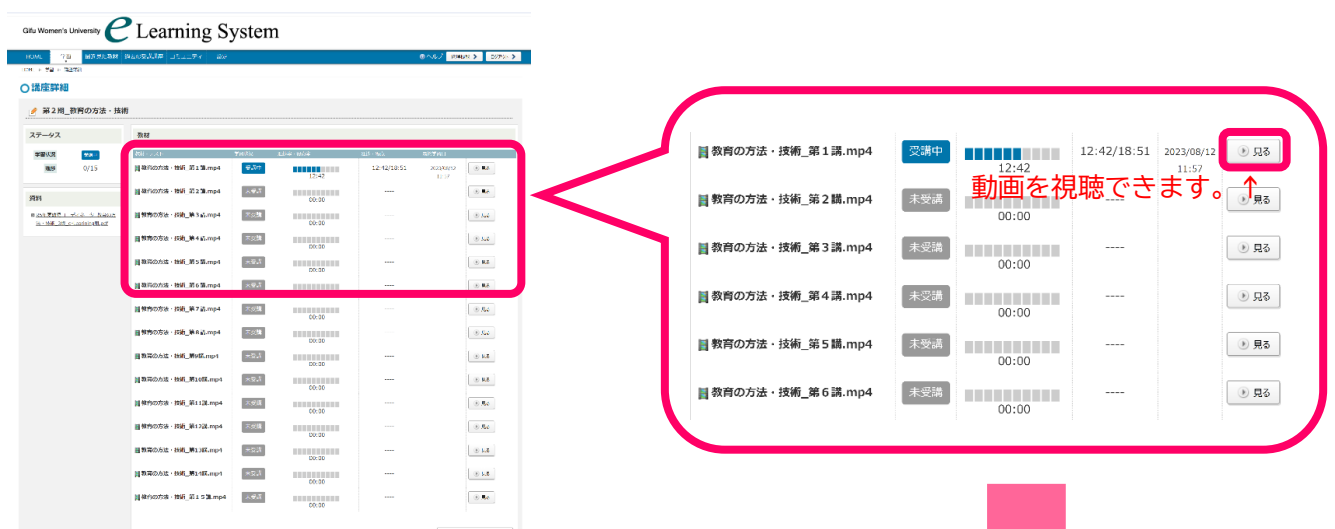


図1. e-Learning の画面



図2. 開発テキスト

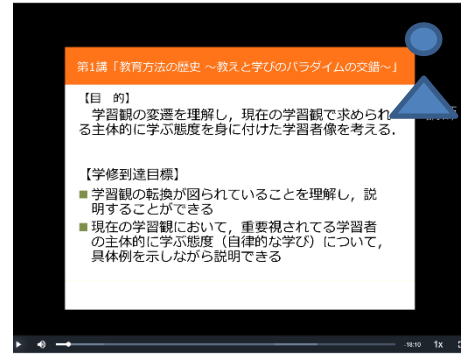


図3. e-Learning での動画

- ・ 本学のこれまでの遠隔教育における経験を活かし、講座の内容を動画とテキストを併用して提供する学びとした。(=ハイブリッド型授業デザイン)
- ・ 加えて、全科目のテキストには、科目で目指す目標（一般目標）と具体的な学習到達目標（行動目標）、幼児教育コーディネータの資質能力を明示した。また、講毎には、学習到達目標と講で身に付ける「幼児教育コーディネータ」の資質能力を明示した。(=キャリアステージに応じた幼稚園教諭の資質能力の構造化・幼児教育コーディネータ養成カリキュラムの開発)
- ・ 講の最後には、受講生自身がさらに学びを深化させていく手立てとして、課題を提示した。(=自律的な学びの環境整備)
- ・ 学びを受講生自身でより広めたり、深めたりすることができるように、テキストには内容に関連する教育リソース（教育の情報）を二次元バーコードで掲載し情報にアクセスできるようにした。(=自律的な学びの環境整備)
- ・ また、本講座は、対面と e-Learning を活用した学びとを組み合わせた「ハイブリット型講座」を実施した。(=ハイブリッド型授業デザイン)
- ・ 幼稚園教諭の新たなキャリアである「幼児教育コーディネータ」を創設し、「履修証明プログラム」として位置づけた。
- ・ オンライン講座のみでは、「一人で孤独に学ぶ」という心象が強くなる。そのため、対面での講座（zoom での講座）と組み合わせた。その対面の際には、受講生同士の交流を重視した。
- ・ 加えて、受講期間中に常に受講生同士、受講生と教員でコミュニケーションを図ることができるよう、e-Learning システムの中に「掲示板」を設定した。（「掲示板」では、文字を入力することができ、受講生・教員が自由に文字を書き込み、お互いにやり取りすることができる。）
- ・ 「掲示板」を設定して受講生同士の交流の場の設定は、令和5年度の受講生より、「受講生との交流の機会がもっとあるとよかった。」との声を受け、改善策として実施したものである。
- ・ 受講生から、「隙間時間を見て、動画をみられたのでよかった。」という声が届いている。このことは、オンライン講座だからこそできた学び方であり、受講生が日常生活の中で学ぶことができていることを示し、受講のしやすさにつながることでありと考える。

② 受講者数

- ・ 受講者数は、15名であり、単位取得者も全員の15名となった。8.3%の受講率の結果となった。
- ・ 募集定員より少ない人数となっているが、広報については、岐阜県や岐阜市、沖縄女子短期大学等とも連携を図り、実施した。
- ・ しかしながら、募集定員には到達しなかったのは、周知徹底の期間が短かったことや本学ホームページと募集要項の郵送のみという手段であったことが一つの要因として考えている。

③ 単位取得者数

- ・ 単位取得者数は、15名（受講者15名中）であった。

④ 本事業を活用して幼稚園教諭等一種免許状に上進した教員数

(4) 今後の課題・展望

- ・ 本講座は、令和3～6年度にわたり実施をしてきた。特に令和4～6年度は、ミドルリーダー層のさらなる学びと幼稚園教諭上進のために講座を設計し、その際に、新たなキャリアとしての「幼児教育コーディネータ」を創設した。新たなキャリアに階層性を持たせることも必要ではないかと考えている。つまり、ミドルリーダー層の前には、初任者層やさらにその前の養成校学生の段階、ミドルリーダー層の先には、熟達者層の段階がある。これらに合わせた、「初級幼児教育コーディネータ（仮称）」や「上級幼児教育コーディネータ（仮称）」の創設を図り、幼稚園教諭の資質能力の向上に寄与できればと考える。
- ・ 受講者数については、周知の方法が上手く行えておらず、このような結果になったことも一つの要因であると同時に、一種上進へのインセンティブを与えられていないことが要因でもあると考える。
- ・ そのインセンティブのためにも、「幼児教育コーディネータ」に階層性を持たせることを考えている。